

I. 日 時：平成 27 年 1 月 23 日(金) 17:00~19:00

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、伊藤委員、和田委員、本村委員、中西委員 (Skype)

事務局：井端事務局長、野本

#### IV. 検討事項

##### 1. ガイドラインの見直しについて、委員からの提案

情報リテラシー教育のガイドラインの到達目標 2 について、データ活用力に関する内容を含める検討に対して、委員から変更案が提示された。

- ・ 高校で情報の入手から発信を習得済みと前提し、整理や分析に焦点を当ててはどうか。
- ・ 収集したデータを基礎的な統計手法を踏まえて、整理・分析・批判的に吟味する方法の修得が考えられるが、数式に踏み込まないで分析手法にしないと統計の授業になる。
- ・ 社会に出て、解のない問題にチャレンジすること。分析から先の訓練を含めた教育が必要で、情報と専門の先生が融合して考える必要がある。
- ・ 小中高までの情報活用能力の目標「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」及び教育の流れを理解し、小中高大と体系的・系統的な情報リテラシー教育を検討する必要がある。
- ・ 到達目標 2 は、情報の実践力に該当する部分で、「問題解決の枠組み」とデータ活用力としての「価値創出」を組み合わせる必要があるのではないかと。
- ・ 問題解決のプロセスは、タテの流れとして「目標設定課程」、「代替案発想課程」、「合理的判断課程」、「最適解導出過程」の過程があり、それぞれの課程にヨコの流れとして、「課題設定」、「情報収集」、「処理」、「まとめ」の作業が必要になっている。そこで、大学教育では、タテとヨコを統合的・スパイラルに問題解決ができることが望まれる。
- ・ 3つの到達目標は全て必要で順序性があるわけではないため、1 2 3をABCにしてはどうか。今回の到達目標 2 は情報活用の実践力の部分で、他の学ぶ文脈になることから最初に移動させてはどうか。
- ・ そので、到達目標 A として以下の内容が提案された。

【到達目標 A】課題を発見し、目標を設定した上で問題解決に取り組み、価値を創出することができる。

1. 問題解決の枠組みを理解し、価値創出を意識した目標を設定することができる。
2. 目標に応じて多様な解決策を検討すると共に、合理的な判断をした上でより良い解決策を創出できる。
3. トレードオフを考慮し、根拠をもって最適解を導出するとともに、意思決定者とコミュニケーションをして合意形成できる。

## 2. ガイドラインの更新について委員の意見

- ・ 到達目標 1、2、3、の順番は、2、1、3にしてABC表記とする。
- ・ 到達度は、観点としての考え方になると考え、到達点にしてはどうか。
- ・ 「価値創出」はレベルが高いことも考えられ、「発想する力」などにしてはどうか。または、「価値創出に取り組むことができる」ではどうか。その他、「新しい価値を考えることができる」にしてはどうか。
- ・ 自然科学系の分野もあり、幅広く考えられる表現が必要。意思決定者とのコミュニケーションは科学コミュニケーションになるのか。意思決定者の部分は意思決定できるなどのしてはどうか。
- ・ 専門の先生とのつながり、科目をクラスタにすることやティーチングコミュニケーションが求められる。大学・学部での取り組みが必要で、先生の理解が求められることから魅力的な表現が望まれる。
- ・ 9月のICT戦略大会で問題提起してはどうか、そのために9月までにガイドラインの見直しを行うことにしてはどうか。

## V. 今後の予定について

- ・ 今回の議論をもとにガイドライン更新案を見直し、メーリングリストで意見交換することにし、9月までにガイドラインを更新することにした。